

善通寺市総務部防災管理課の取り組みについて

善通寺市総務部 防災管理課

○ はじめに

日頃は、善通寺市の防災行政にご理解とご協力をいただき御礼申し上げます。

この度、かがわ自主ぼう連絡協議会様より、防災管理課の取り組みについて紹介してほしい。というご依頼を頂戴いたしましたので、僭越ではございますが紹介をさせていただきます。

『善通寺市は災害の少ない地域である』ということをよく耳にするかと思えます。

市の地域防災計画の資料から調べてみると、近年、善通寺市で震度4以上の揺れがあったのは、平成12年(2000年)の鳥取県西部地震と平成13年(2001年)の芸予地震の2件のみです。

また、風水害を見てみると、近年に大きな水害があったのは、昭和58年(1983年)の台風10号、平成2年(1990年)の台風19号、平成16年(2004年)の台風23号及び平成30年(2018年)の7月豪雨の4件です。

結局、1983年から現在までの約40年間に発生した主要な災害は、地震と風水害を合わせても6件程度であり、このようなことが『善通寺市は災害が少ない地域である』という所以かもしれません。

さらに、災害が生起しそうな状況においても『弘法大師様がお守りしてくださる』と思っておられる方もいるようです。

このような中で、防災管理課は、市の地域並びに市民の生命・身体及び財産を災害から保護するため、消防団員、自治会、自主防災会の方々や防災士会の方々の協力・支援を得ながら、『地域の防災力向上』に向けて尽力しているところであります。

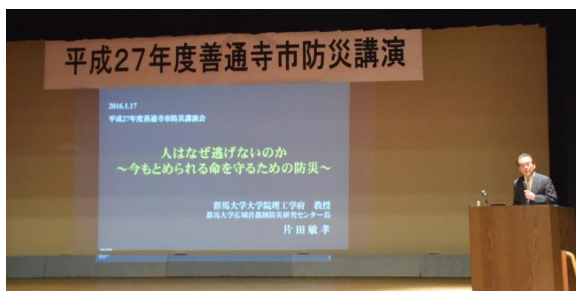
それでは、どのような取り組みをしているか、その一部を紹介させていただきます。

1 自らの安全は自らが守るのが防災の基本(自助)

(1) 全般

『弘法大師様がお守りしてくださる』ではない!・・意識改革等が必要

このため、①市主催の防災講演会を年1回基準で実施しています。



平成27年度善通寺市防災講演会



講師 片田敏孝先生

令和2年度及び令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、市主催

の防災講演会は中止をしました。過去に実施した講演会から平成27年度に実施した防災講演会を紹介します。講師は、当時、群馬大学理工学研究院教授の片田敏孝先生です。「人はなぜ逃げないのか～今求められる命を守るための防災～」と題して、講演をいただきました。先生は2003年から三陸地方で津波防災対策の活動と小中学校での防災教育を一環して行い、東日本大震災の巨大津波から、釜石市の99.8%の子どもたちを救った教授として注目を浴びておられます。しかし、先生は講演の中で、釜石市の小中学生がほぼ全員大津波から無事逃げ切ることができたということよりも、0.2%の子どもたちを救えなかったことの方を悔やんでおられました。

(2) 講演の一部を紹介すると、

「おじいちゃんはね、そのときたぶん逃げないって言うと思うよ。なぜならば、おじいちゃんは津波で死んだことがないからである。つまり、ずっと大丈夫だった経験しかない。おじいちゃんが、60年、70年、80年と生きてきた間に何事もなかったという経験だけで、大丈夫だと言って逃げないとするならば、それは、おじいちゃんのお考えが間違っている。おじいちゃんの言うことはできるだけ聞いた方がいいけど、その日、その時だけは、逃げないでいるおじいちゃんを間違っていると言って、君たちが連れて逃げるんだ。」

おじいちゃんは、この前も大丈夫だったので、逃げなかった。今度も大丈夫だろうということで、逃げないことを繰り返し、最後に1回『しまった、逃げておけばよかった』というときを迎える必然性がある。

でも、君は違う。今回も逃げる。さらに、また逃げる。今回も津波が来なくてよかったねと言って逃げ続ける。そして、最後に勝ち取るのが

『やっぱり、逃げててよかった』という一言となる。

(3) 講演の内容から、

善通寺市に災害の前例がないからといって「善通寺市は災害が少ない」という認識を持つてはいけない。

特に、大人はそのような認識を持つてはいけない。

今後30年以内に70～80%の確率で発生するといわれている南海トラフ地震においても、子どもたちの命を助けたいなら、自分たちが経験したことのないような非常に恐ろしいことが起きる可能性があるということをしっかりと教えていかなければならない。ということを確認させられました。

②防災講演会の際に啓発資料を配布しています。

「自らの命は自らが守る」という防災意識の向上のため、防災講演会参加者に啓発資料として、今回の講師、片田先生の著書「災害から命を守る 防災教育のすすめ」を配布しました。

この著書の中に、釜石市の「津波記憶石」に、中学2年生の子どもたちが刻んだメッセージの紹介があります。

『100回逃げて、100回来なくても、101回目も必ず逃げて！』という言葉です。なんともこの言葉は心に響きます。

③防災ミニ劇場により防災意識・知識の高揚を図っています。

講演に先立ち、女性消防団員による「ミニ劇」を実施しております。

27年度のミニ劇は、「自分の命は自分で守ろう」という題目で、緊急地震速報が鳴った場合の安全確保の要領や応急担架の作成方法など笑いを交えながら楽しく教えていただきました。



2 有機的活動のできる自主防災会（共助）

（1）全 般

善通寺市には8個の小学校が存在し、この8校区を基準として8個の自治会及び8個の自主防災会を組織しています。自治会イコール自主防災会となっておりますので、自治会長兼自主防災会長という2キャップの会長も半数以上おられます。

また、自主防災組織の活動カバー率は100%となっています。

災害時に被害の拡大防止や軽減を図るためには、この自主防災会による有機的な防災活動が極めて重要になることから、善通寺市においては8個の自主防災会による「[善通寺市自主防災会連絡協議会](#)」を設置し、各自主防災会相互の連携を密にするとともに、各自主防災会の合同による訓練等を通して、地域住民の連帯と防災意識の高揚に努めています。

なお、協議会は、平成29年7月に設立しました。それ以降、年1回を基準に各自主防災会の合同防災訓練を実施しています。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため合同訓練を中止しました。

以下、各自主防災会の合同による訓練の一部を紹介します。

（2）ボランティアクラブの中学生との合同訓練

この訓練は、自主防災会連絡協議会が設立して最初に実施した合同防災訓練です。

善通寺市の東中及び西中のボランティアクラブの生徒たちと自主防災会の方々との合同による防災訓練で、南海トラフ地震のような大地震が発生した場合における地震発生直後の基礎的な課目を一連の流れの中で訓練しました。

訓練指導は、香川県防災士会中讃支部の防災士（以下、防災士という。）の方々及び市消防の隊員にお願いしました。

それでは、訓練の概要について説明します。

- ① 自宅にてテレビを見ながらくつろいでいると突然に緊急地震速報が発表され、テーブルの下へもぐりこむなど自分自身の安全確保をする訓練（シェイクアウト訓練）を実施、その後、大きな揺れや液状化現象などによる「ため池決壊」を想定して緊急避難場所へ避難する訓練を実施。

（ヘルメットをかぶり、非常持ち出し袋のリュックを背負い、



厚底の運動靴を履いて、手袋をはめ、笛を携行して緊急避難場所へ避難する。)

- ② 緊急避難場所へ避難する途中で火災を発見したという想定で、水消火器を使用して、消火器による消火要領を訓練しました。



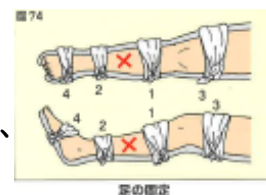
また、火災が発生した場合、必ずしも消火器が近くにあるとは限らないため、バケツリレーによる消火要領も訓練しました。

いずれにしても、大地震の際は、消防機関は人命救助等ですぐに消火に駆けつけてくれるとは限りません。このようなときは、火災が小さいうちに皆で協力して、初期消火に努めることが大切ということを実感しました。

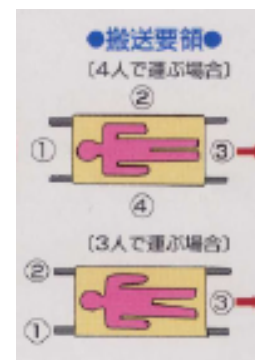
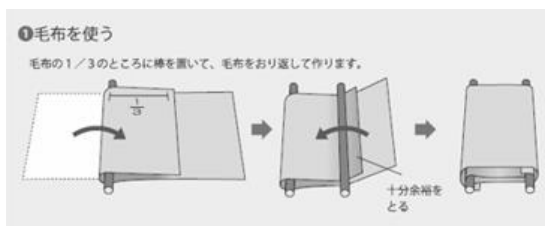


- ③ 次に、家屋の中から助けを求める声がする。中をのぞいて見ると、転倒した家具に挟まれている人を発見したという想定で、ジャッキやボールを使用して救出する訓練を実施しました。ジャッキは自家用車に積載しているものを使用しました。

- ④ 何とか救出したものの足を骨折しているという想定で、災害時における応急救護要領として、副木の代用品（段ボール、重ねた新聞紙、雑誌）を使用し、包帯の代用品（タオル、ネクタイ、レジ袋）を使用して足の骨折処置をしました。



- ⑤ そして、このままでは、一人で緊急避難場所まで避難ができないため、竹竿と毛布を使用した応急担架の作成を訓練し、更に、搬送要領も訓練をしました。



- ⑥ 救出したもう一人は、意識がなく、呼吸をしていないという想定で、「観察～心肺蘇生法～AEDの使用～救急隊員への引継ぎ」までの訓練を実施しました。

- ⑦ 訓練は午前9時から正午までの3時間で大変疲労しましたが、大地震の発災直後における想定される対処事項等を十分に修得できるいい訓練になったと思います。

(3) 合同 HUG（避難所運営ゲーム）訓練

この訓練は令和元年度に実施した HUG 訓練です。
8地区自主防災会の役員等が集まって実施しました。



司会進行（ファシリテータ）は防災管理課で担当しました。

各グループのカード読み上げ係は、防災士の方々にお願いをしました。

そのおかげで、大変スムーズに訓練を進行することができました。

このゲームは、避難所の面積や使用にあたっての制約条件があり、また、発災後の切迫した時間の間に次々と住民の方々が訪れ、そして各々の抱える特殊な事情に併せて環境を準備するなど、多くの問題解決を限られた時間内で実施していく訓練です。

まだ実施したことのない方は、避難所の運営要領が楽しく学べるいい訓練ですので、機会があれば、ぜひ、HUG 訓練に参加してみることをお勧めします。

○今回の HUG 訓練において皆さんが悩んだポイントの一部を紹介します。

①観光バスで来られている方が、避難所に来た場合の対応について考えた。

避難所は住民優先なので、まずバスに居ていただいて、災害対策本部に連絡をとった。他のグループは、どのように対応しましたか？

②102歳の老人が家族5人で避難してきた。

介護者と老人は個室、残りは大部屋とした。

他のグループは、どのように対応しましたか？

③ペット類の取扱いが課題となった。

猫、ウサギは雨の当たらない小屋にいった。犬は遊具に繋いだ。

他のグループは、どのように対応しましたか？

④し尿処理が問題になった。

仮設トイレは運動場に設置した。

汚物の袋は穴を掘って、シートを敷いてそこに置くことを考えた。

他のグループは、どのように対応しましたか？

・・・など多数

○以上のように、大変考えられる訓練でした。このような訓練を積み重ねることによって、発災時の行動能力を更に向上させることができるものと信じています。

(4) 避難所開設訓練

この訓練は令和3年度に実施した避難所開設訓練です。

市内8地区の自主防災会や防災士の方々が集まり訓練を実施しました。

大規模地震等の災害が発生した際に、スムーズに避難所開設が行えるよう、避難所で実際に使用する、カーテン式間仕切り・簡易ベッド・段ボールベッド等の組立及び避難スペースへの配置を行いました。



新型コロナウイルス感染症に対応した避難所運営を実施するため、入り口同士のスペースを十分にとりました。

また、四方を間仕切りで囲うため、避難所でのプライバシーも確保できます。



カーテン式間仕切りの組立が終了したら、次は簡易ベッド及び段ボールベッドを組み立てました。

最初は、なかなか思うように組み立てられない場面もありましたが、防災士の

方々のサポートもあり、徐々にスムーズに組み立てができるようになりました。



災害は、いつやってくるか分かりません。災害時に焦ることが無いよう、このような訓練を今後も継続して実施をし、多数の住民の方がカーテン式間仕切り等の組み立てができるようにしておくことが重要であると認識をしました。

○ おわりに

比叡山延暦寺の根本中堂には、1200年前に最澄によって灯された「不滅の法灯」というのがあります。この法灯は1200年間、一度も消えることなく灯され続けています。これは、1200年間、油を断つことなく、毎日、僧侶が、油をつぎ足してきたからだと言われています。そして、「油断大敵」の「油断」（気を許して注意を怠ること）の語源になったとも言われています。

また、高野山の奥の院の燈籠堂（とうろうどう）にも1016年から1000年以上灯し続けている祈親燈（きしんとう）と呼ばれる「不滅の聖燈」があり、この「不滅の聖燈」が高野山開創1200年を祈念して高野山結縁行脚の一行により総本山善通寺に「分灯」され、「油断」することなく灯され続けています。

善通寺市は「弘法大師様がお守りしてくださる」ではない。という認識の下に、自主防災会や防災士の方々と緊密な連携を図りながら、自助・共助・公助により、災害から市民の生命・身体・財産を守れるよう、「油断」することなく、防災活動を行っていかうと思います。

今後ともご指導ご鞭撻をよろしく申し上げます。



不滅の聖燈 総本山善通寺到着 H27.1.9

<編集後記>

年度替わりの季節になりますと、人事異動今年も総局長さんが商工労働部長へ、三好次長さんがご勇退、塩田課長さんが高松市へと更に一番身近な長谷川氏も異動としばらくは惜別感がいっぱいです。しかし田中総局長さん、植松次郎さん、三谷課長さんとなつかしい幹部の皆さんにご指導をいただき、コロナ禍の中で、しっかりと地域防災活動に努めたいと思います。

第182号の原稿は善通寺市防災管理課の西岡様にお願いしました。「女性消防団による防災ミニ劇場」による防災意識の向上、更には、「ボランティアクラブの中学生」との合同訓練などユニークな取組みを紹介していただきました。年度替わりのおいそがしい中、ありがとうございました。今後ともよろしくお願い申し上げます。